

人間科学部社会科学「現代文化論」

人と文化の関係を学ぶ「現代文化論」(人間科学部社会科学、担当 後藤吉彦准教授)では、東京・新宿の街頭で雑誌『ビッグイシュー』を販売する金井昭三さんをゲストに招いた。金井さんは、300人の学生たちに「自分のやりたいことを買って」と語った。

『ビッグイシュー』は「ホームレス状態」の人00円の一部(160円)が収入になる仕組みだ。仕事を提供↓自立を促す事業として1991年にロンドンで誕生、日本では2003年に始まった。事業元は、「路上販売の歴史が浅い日本では100%失敗する」という常識に挑戦中だ。

学生300人に「路上生活」語る

都合により写真を掲載いたしません。紙面をご覧ください。

▲ 後藤准教授(右端)から紹介される金井さん(右から3人目)＝6月22日、生田キャンパス

「半分半分」。一時、雑語が話題になって注目されたこともあったが、6月22日、生田キャンパスでの授業は、後藤准教授と学生3人が金井さんインタビューして進められた。同誌販売を始めて1年半。「いい時もあれば悪い時もあり、売れ行きは

都合により写真を掲載いたしません。紙面をご覧ください。

▲ 「まちあるき」では1年次生が新宿の金井さんをインタビュー＝5月19日

「読んでほしい」と語った。路上生活者になる経緯は千差万別だ。長野出身の金井さんは、ガラス職人、ペンキ屋、ガードマン、自衛官などさまざまな仕事を経験したが、思うよ

「飢餓の子どもたちを救いたい」



▲ 佐藤さん(左)と中村さん

生田キャンパスに 食の国際貢献サークル TFFTsenshu

あなたの食事が飢餓の子どもの一食に。『食べる』国際貢献運動を推進するTFFTの本学サークル「TFFTsenshu」(以下「TFFT専修」)が生田キャンパスに誕生。5月から学生食堂「生田会館銀座スエヒロ」(以下「スエヒロ」)と協力して、



▲ スエヒロのTFFTメニュー「豆腐と鶏肉のハンバーグひじきあんかけ」

TFFTメニューを提供している1面に写真。TFFT(Table For Two)は、「二人の食卓」の意味。発展途上国の飢餓と、先進国の飽食による肥満・生活習慣病という正反対の現象を同時に解決しようと2007年に発足。NPO法人が運営する日本発の社会貢献運動だ。

先進国の飽食解消も目指す

「いつものお昼ごはんを変えて」で国際協力に「スエヒロ」で本格的に活動を始めた。同店では定食・丼物など1日3〜4品を提供している。スタートの5月14日から6月22日までに800食以上が売れ、1万5260円がウガン

「再開発で街はきれいになったが、金を払わなければ何もできない状況もある」と街の美観とは逆の昨今の「暮らしにくさ」を訴えた。「散髪は自分でする」ときれいに切りそろえた髪を示し、会場を笑わせたり、しみりませたりの金井さん。最後に大学生へ一言「と促され

国際交流活発に

留学生日本語スピーチコンテスト

来日早々の失敗をユーモラスに 優勝は中国の丁中斐さん(文2)



▲ 優勝した丁中斐さん

専修大学に学ぶ留学生が「日本語力」を競う「第13回留学生日本語スピーチコンテスト」が6月19日、生田キャンパスで開催され、ドイツ、中国、韓国、ベトナムから9人が出場。見事な日本語が披露された。優勝は丁中斐さん(文2・中国)。

「専大の全食堂でTFFTメニューを展開させた」と意欲を燃やす佐藤さん。学生部の海外研修・国際交流制度の奨学金を得て、8月にはアフリカ南部のザンビアを訪ねて調査を行う。

欧州の経済事情について講演

オトゥール客員教授 「やさしい英語による経済学講座」



▲ 講演するオトゥール客員教授

国際交流センター主催の特 別講演会「やさしい英語による経済学講座」が5月12日から6月30日まで全5回、生田キャンパスで開催された。講師はダブリン大学トリニティカレッジ(アイルランド)のフランシス・オトゥール経済学客員教授。オトゥール客員会(IECC)、EUの最高裁判所にあたる欧州司法裁判所、ユーロ圏の金融政策を担う欧州中央銀行(ECB)といった主要機関の役割について解説。加えてEU加盟国の経済状況についても言及した。参加者からはギリシャやスペインなど財政危機の状況にある加盟国に関連する質問などが多く寄せられた。

豪ウーロンゴンの留学生も参加



▲ 留学生ら68人が参加した

豪ウーロンゴンの留学生も参加

豪ウーロンゴンの留学生も参加。ボウリング大会。留学生・日本人学生交流ボウリング大会が6月27日、向ヶ丘遊園駅前のBIGBOWLで開催された。